

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1172502211		
法人名	社会福祉法人 桑の実会		
事業所名	康寿園グループホーム輝		
所在地	所沢市東狭山ヶ丘6-2796-1		
自己評価作成日	令和2年10月6日	評価結果市町村受理日	令和3年6月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和2年10月13日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、「桑の実会」が運営母体となっているグループホームである。「その入らしく輝いて欲しい」という理念のもと、職員は利用者の伴奏者となるように生き活きと笑顔で介護に励んでいる。ホームは住宅地の中にあり、小中学校に隣接している。ホームの中は廊下を含め共有スペースなど広くゆとりがある。昨年度までは地域交流室を自治会やボランティア会議などの地域活動に開放していたが、今年度は新型コロナウイルス感染防止のためですべて中止せざるを得ない状況にある。習字や絵手紙など多様なボランティアによる来訪も現在は中止している。職員は、ホームの開業前から通学路に立ち小学生の登下校の見守りを行うなど、地域住民との関係ができています。また、運営推進会議には小学校長、行政、自治会長や地域住民の参加により活発な審議が行われてきたが、現在はコロナ禍で災害、防災への地域住民による協力体制が難しい状況ではある。対策案として、現在は建物の前に掲示板を設置して地域住民に向けて様々な発信を行っている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・下肢筋力低下防止体操やクィックルワイパーを使用しての清掃、知的レクやリズムカルな歌を唄うほか、丁寧な口腔ケアなど、きめ細かなケアプランが生まれ、利用者の健やかで笑顔あふれる暮らしに結び付けられている。  
 ・運営推進会議では、事業所から利用者の暮らしぶりや活動報告のほか、身体拘束廃止や認知症サポーター養成講座を含む体験学習への取り組み、地域の情報の交換など、幅広い内容での話し合いが行われ、有意義な会議運営をされている。  
 ・目標達成計画については、前年度は厚労省通知の要件を満たし、外部評価の実施は緩和されたものの、課題を設定し、災害対策として、定期訓練では火災発生を想定した訓練のほか、風水害を想定した避難訓練にも取り組まれたり、備蓄品の点検や緊急連絡網の確認など、体制整備に取り組まれていることから、目標が達成されている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のユニット会議や職員合同会議で、事例をもとに理念の実践に向けた取り組みを行っている。また、新入職員には、入職時に管理者が説明指導を行い、理念の共有に取り組んでいる。	「その人らしさを大切に、いつまでも自分らしく輝いてほしい」という理念のもと、利用者の健康とその人らしさを大切に、いつまでも笑顔で生き活きと過ごされるよう支援に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流はコロナ禍で全く実践出来ない。また、平時はホームの地域交流室を地域に開放することで情報交換がなされていたが、コロナ禍で一切中止している。ホーム開設前からの小学生の登下校の見守りは引き続き継承している。	最近では自粛をされているが、外出時には近所の方と挨拶を交わされたり、地域の祭りや運動会への参加のほか、体操教室では地域の方と一緒に楽しく過ごされている。また、ボランティアの方々や小学生との交流など、利用者が地域との関わりを持ちながら暮らし続けられるよう支援をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域の人々との交流は一切中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは学校、地域、民生委員、行政、法人代表から構成されている。会議では事業報告や行事予定の説明の他、参加者との情報交流が活発に行われ、災害時の協力体制についても話合われていたが、コロナ禍で3月以降全く開催出来ていない。	事業所から利用者の暮らしぶりや活動報告のほか、地域情報の交換、身体拘束廃止や認知症サポーター養成講座を含む体験学習への取り組みなど、幅広い内容での話し合いが行われ、事業所運営やサービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	取り組んでいる。	行政の担当者には運営推進会議でアドバイスをいただいたり、市内地域密着型サービス管理者会議など参加機会にコミュニケーションを図られ、良好な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止について、毎月のユニット会議で話し合っている。身体拘束をしないケアを原則としているが、緊急やむをえない場合、家族の了解をとっている(ベッド柵等)。	身体拘束適正化委員会が定期的に開かれている。その機会に、拘束に関する学びの時間をもち、身体拘束の内容とその弊害が確認され、言葉での拘束を含め、行動抑制をしない介護を実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何か虐待にあたるのかを常に指導し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、学習をしてきたが、職員が学ぶところまで到達していない。必要な人には支援をする用意はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書はすべて音読みし、一つ一つの項目に説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ソーシャルディスタンス保持や、玄関先でのカーテン越しでの会話にはなっているが、家族の訪問時は、できる限り声をかけ思いを聞くようにしている。家族が参加しての行事もすべて中止しているため、全体での意見を聞く機会がない。利用者の意見、不満、苦情は職員がユニット長、管理者に届け、ケアプランや運営に反映させている。新たに苦情受付表及びファイルを作り、苦情にとどまらず意見等も記録することにした。内容は、第三者委員会にて報告している。	「散歩をしたい」など、利用者の要望に応えられている。家族については面会時や家族会などで意見・要望を聞き取られている。その意見や要望は職員間で話し合い、サービスや運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時意見を聞き入れ迅速に対応している。年1回個人面接をし、職員の意見を聞くと共にユニット会議からも意見を聞き、反映させている。	定例会議や個別面談のほか、日常の業務の中でも話し易い職場環境が作られ、意見・提案の聞き取りをされ、転倒防止策やレクリエーション企画など、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正規雇用は功労を認め、役職、給与に反映している。非正規雇用の場合は定期昇給にて反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は内部、外部の研修を受ける機会がある。救命研修には全職員が参加し、スキルアップ、指導者研修へと進めている。また、研修受講者は研修報告書を提出しており、報告書を回覧して職員間で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2018年に「埼玉県認知症介護指導者」の資格を取得したので、指導者間の情報交換などで、認知症ケアの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談を重視し、話をよく聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いも重視し、ホームとしての対応など事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況を見て、入居のあり方を家族、本人、担当ケアマネとよく話し合い、より本人にとって良い方向を工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	特に、調理や洗濯物干し、掃除などの家事全般の場面で学ぶことが多く、スタッフが入居者から教えをいただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本的に面会禁止のため、ご家族の来園は激減しているが、毎月のご家族あてのお手紙や、お電話などで状況をお知らせして安心していただいている。自分の気持ちを表現できない入居者は、特に家族の意見や考えを聞くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、一切中止している。	最近では自粛されているが、学友やサークル仲間、ご近所の方が面会に見えるほか、電話や手紙のやり取りなど、これまで大切にしてきた関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の流れが上手くいくよう、必要に応じて職員が輪の中入るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に戻った方にも、他の施設に移った方にも、新型コロナウイルス感染防止のため一切お会いできていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「どうしたいのか」を聞きとることに力を入れている。希望全てを取り入れることは困難だが、可能な限り叶えたいと考えている。	利用者一人ひとりとのコミュニケーションと信頼関係を大切に、声かけを行うことで、思いや意向を把握されている。把握の難しい利用者についても、表情や仕草から汲み取るほか、生活歴の振り返りや家族からの情報をもとに、利用者本位に検討をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントからの情報のみでなく、日常の会話や家族からの新たな情報を会話等で共有するようにしている。家族に生活史を作成してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や口調を観察しながら日々の活動を促したり、休息を入れたりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランには、家族の方が書かれた生活史や本人への聞き取り調査を重視し、作成している。コロナ禍のため原案をご家族に送付して、意見を求めたり、了承のサインをいただいている。	利用者・家族から思いや意向を聞き取られ、医師・看護師などの指示を含め、職員間で意見交換を行ない、体操や知的レクリエーションのほか、活け花や茶道の時間を組み入れるなど、健康とその人らしさを大切にした介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	手書きの記録から、ブルーオーシャンへの入力に変わったため、日々の様子を細く記録され、ケアプランが実施されているかどうか、一目でわかるシステムになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の手術等では、長期入院が困難な場合は、臨機応変に受け入れ体制をつくっている。入居者の状況に応じて、柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、地域のボランティアは一切中止している。地域住民を巻き込んだ避難訓練もすべて中止しているため消防署、民生委員、地域住民、近隣施設の協力体制は脆弱になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診時や看護師による健康相談、また緊急時は電話等で日常的に入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援できている。	入居時に利用者・家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診支援は家族対応を基本とするも、職員同行も適宜行なわれ、必要な情報提供を行ない、適切な診療が受けられるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診時や看護師による健康相談、また緊急時は電話等で日常的に入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援できている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	重度化や終末期に向けては、家族面談を行い、話し合っている。入院時には2～3日に1回は入居者を連れて顔を見に行くようにしたり、必要時は毎日、昼食介助に行く事もある。病院関係者とはこまめに連絡をとり、早期退院を実現している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医、ご家族の協力により今までに2件のターミナルケアが実施された。今後ともご家族の意向を聞きながらターミナルケアを実施していく。	利用者の症状に合わせ、重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一を図られている。その後も意思確認を進めながら、医師・看護師と連携のもと、重度化や看取り支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の防災訓練時に、全員救命講習を受けているコロナ禍で消防署立ち合い中止のため、内容はやや不十分になっている。緊急時のマニュアル作成されている。また毎月1日は自主定期的に事業所内避難訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月11日に法人内で安否コールの確認のメールが届いたり、3月11日には各事業所で備蓄確認や災害時のシミュレーションを行ったりしている。事業所内防災訓練は毎月行っている。今年度はコロナ禍で地域住民、消防署立ち合いの訓練は中止している。応援、協力体制は出来ている。	毎月1日に避難訓練に取り組まれるほか、定期訓練でも1階台所からの火災発生を想定し、避難誘導訓練を実施されている。また、備蓄品の点検や連絡網の確認など、体制整備に努められている。	災害対策には十分取り組まれています。今期一部、職員の異動があり、災害時の組織対応力の維持向上に向けた継続的な取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格、人格を尊重し、9人それぞれオリジナルなケアを行っている。居室に入る時はノックする等、プライバシーには気をつけている。	利用者一人ひとりに合った言葉かけやケアのほか、居室・トイレの入口への暖簾やカーテンの取り付けなど、利用者の人格を尊重した対応、排泄や入浴時の羞恥心やプライバシーへの配慮など、きめ細かな対応がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	説明の仕方を工夫し、理解できるよう話しかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動等はその人のペースに合わせた事を行っているが、入浴時間は、浴室の作りや安全面を考えて午後になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍だが、美容は美容師が来園して、ヘアカット、顔そり、ヘアカラーをしていただき、満足していただいている。声がけしてお化粧やマニキュアも楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌い等を考慮している。準備、片付けも協力しながら行っている。	利用者の個々の状態に合わせて、下拵えや後片付けなど、職員と共に行われている。皆さんで足踏みしてうどんを打ったり、コストコのビッグサイズのピザを楽しまれるほか、利用者の好みと食の楽しみを大切にした手作りの美味しい家庭料理が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の基本的な食事量、水分量を把握している。体調変化が見られる時はチェック体制を敷き、数字を記録しながら体調回復に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科との契約により、毎週一回歯科衛生士が徹底的に口腔ケアを行うとともに、歯科衛生士から指導を受けて、毎食後の口腔ケアを徹底して、歯科医師からも完璧だとお褒めの言葉をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	会議等で話し合い、誘導回数を増やしたりしばらく様子を見てから再検討する等、工夫している。	トイレでの排泄を基本とし、利用者一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行なうほか、利用者個々に事前誘導を心掛けるなど、きめ細かなケアをされ、負担軽減と自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムを個々に把握したうえで、家族と医師の許可を得てそれぞれに合った下剤の選択やトイレ誘導の時間を工夫している。便秘だけでなく、浮腫み改善の為に運動や足浴等を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否の場合でも、再度声かけを行ったり、しばらく様子を見てから再検討する等、工夫している。	午後入浴を基本に、できる範囲で利用者の希望に沿った支援をされている。一部職員2人体制での支援にはなるが、全ての利用者が浴槽にゆっくり浸かり、入浴を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠前はフロアー又は居室でTVを観る等、自由に過ごして入眠している。昼夜逆転の場合でも、夜間できるだけ入眠を促す工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスへの危険性を充分認識している。2重3重の対策により、重大なミスはなくなった。薬の変更や逆に食事内に変更(コーヒーを飲む、グレープフルーツを食べる)時にも、注意事項を見直して慎重に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前行ったことや挑戦したことを聞き出し、生活が単調にならないよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、3月から9月まで外出は一切行っていなかったが、建物の周りをマスク装着の上、散歩することを始めた。	最近では自粛されているが、事業所周辺での散歩に出かけられるなど利用者の希望に沿った支援をされている。また、初詣やお花見、地域の祭りや小学校の運動会、隣接事業所でのマルベリーカフェに出かけられるなど、利用者の希望を大切に支援に取り組まれている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる入居者は自己管理をし、できない入居者は事務所で預かっていることを伝え、必要時伝えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時には随時かけている。手紙を書く事が好きな人には、切手、便箋の購入、投函も援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に花や植物、又は季節の行事(七夕、ひな祭り、お月見、クリスマス、お正月等)を飾り、季節感を持ってもらえるようにしている。居室や食堂には写真や花を飾る等、明るい空間作りを目指し、入居者と一緒にできる様にしている。一日最低一回の窓の開放、居室換気扇の24時間運転により、十分な換気が行われている。エアコンの調節は日中は日勤、夜間は夜勤者が責任を持って行っている。エアコンのフィルターもこまめに掃除をしている。玄関の植木を楽しめる様にしている。	共用スペースには季節のコスモスの花ともみじの貼り絵やイベント時の思い出の写真が飾られている。また、リビングルームはテラスのある大きな窓で、緑の樹木が見え、明るく開放的な空間に大型ソファが置かれ、テレビを観たり、音楽CDに合わせ歌を唄う方など、利用者が気持ち良く、ゆっくり過ごせる設えとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りで居る時などむやみに声をかけず見守りをするようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	TV、タンス、冷蔵庫等、これまで使用していた物を置くことによって、他にも好みの物を配置できるようにしている。	馴染みの寝具やラジカセ、家族の写真、書道や塗り絵が飾られるなど、利用者が居室内で落ち着いて生活できるよう工夫をされている。共用スペースを含め、定期的な清掃が行われ、整理整頓と清潔維持に努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をなくし、スロープを作っている。又、必要な所に手すりを設置している。トイレのマーク、夜間の照明の工夫、家具の配置など安全と自立を支援している。		

(別紙4(2))

### 目標達成計画

事業所名 康寿園グループホーム輝

作成日: 令和2年 11月 1日



目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35 (13)	○災害対策 災害対策には十分取り組まれているが、今期職員の異動があり、災害時の組織対応力の維持向上に向けた継続的な取り組みが必要	職員の異動があっても、随時連絡体制を変更し継続的な災害対策を講じることができるようにする。	法人内の「生産性向上委員会」において、「自然災害発生時における業務継続計画」を新たに策定することが決定した。当事業所でもユニット長2名が委員会に属しており、事業所の特色に見合った計画を策定中である。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

21-06-29; 12:30 ; 康寿園グループホーム輝 ; 04 2929 8813 # 4 / 4